

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

主幹教諭（中学校教諭）

評価領域		着眼点
I 学校の組織的な運営		<ul style="list-style-type: none"> ・校長及び教頭の指示を受け、その職務を整理し、校長等が判断・処理できるようとりまとめている。 ・企画委員会等の構成員として学校運営に積極的に参画している。 ・学校運営が組織的、機動的になされるよう、教職員の共通理解の下、積極的に分掌間の調整等に努めている。
II 教科指導・生徒指導等	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実を図るため、常に教材研究に努めている。 ・適切な指導計画に基づき、年間を通じて計画的に授業を進めている。 ・生徒一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導・支援を行っている。 ・指導と評価の一体化を図り、指導の改善や生徒の学習意欲の向上に努めている。
	生徒指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会の一員としての自覚を養い、望ましい生活習慣を育成している。 ・教育相談的な対応に心がけ、生徒理解に努めながら適切な生徒指導を行っている。 ・生徒一人一人の特性を考慮に入れた進路指導を行っている。 ・家庭や地域との情報交換を行い、連携して指導している。
III 担当する校務等		<ul style="list-style-type: none"> ・担当する校務の課題を的確に認識し、改善に向けて組織的、計画的に取り組んでいる。 ・教職員とのコミュニケーションを図り、適切に指導・助言している。 ・開かれた学校づくりに意欲的に取り組んでいる。 ・教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。
チームワーク行動		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。